



今月の大槌とびと

NPO法人ワーカーズコープ 大槌地域福祉事業所 のみなさん

今月の広報の冒頭でも取り上げた、見守りや地域での居場所づくり。NPO法人ワーカーズコープ大槌地域福祉事業所(以下、「ワーカーズコープ」)では、大ケロの「ねまれや」を拠点に多世代にわたる居場所の提供などを行っています。今月はワーカーズコープで働く東梅麻奈美さん(表紙・後列右端)にお話しを伺いました。

ワーカーズコープでは介護や福祉の制度事業、補助金などを活用しながらデイサービスや学童保育、ほこあぼこ、障がいがある方の日中一時支援事業をはじめ、子どもから高齢の方、障がいの有無に関係なく誰でも地域とつながれる場作りをしています。

また、制度事業の対象ではない方も利用できるように、お茶っこサロンや介護予防体操、子ども食堂、ものづくりのイベントなど開催し地域の方が集まるきっかけづくりをしています。特に高齢の方や子育て中の方、介護をしている方も少しでも外に出たり、「ねまれや」でのイベントに参加することで地域とつながり、地域の人同士で支え

あえる関係を作ってほしいと思います。

地域が持つ力を引き出す

「ねまれや」での活動をとおして「交流から生まれるもの」を実感する機会があります。子どもからお年寄り、障がいのある方が日常の中で一緒に過ごすことで、お年寄りが元気になってきたり、子どもたちが積極的に何かに取り組む姿が見られます。

12月26日に町内の放課後子ども教室「OLAI(オライ)」、吉里こスクール、ほこあぼこの子供たちと一緒に大槌学園でもちつき会を開催したときは、子どもをとおして町内の初対面の大人同士の交流が生まれたり、子どもたちと大人と一緒に活動する場面もあり、交流することで連帯感や社会性、子どもの成長につながると改めて実感することができました。

「福祉」や「支援」だけでなく孤立せずに地域とつながりを持つこと、相談できる相手がいること。それは空気や水のように当たり前にあるけれども必要なことです。地域全体でそのことを理解することで自然と支えあうことができると思っし、そういうゆるやかで強い力を地域は持っています。私達の活動が地域の力を引き出すきっかけになればいいと思います。